

平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年11月11日

上場会社名 中日本興業株式会社 上場取引所 名
 コード番号 9643 URL <http://www.nakanihonkogyo.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 服部 徹
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 感動創造支援本部本部長 (氏名) 三田 則男 (TEL) 052-551-0274
 四半期報告書提出予定日 平成28年11月14日 配当支払開始予定日 平成28年12月2日
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	2,031	4.3	97	△18.0	85	△29.7	125	54.0
28年3月期第2四半期	1,946	27.2	119	△6.8	121	△7.4	81	0.4
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
29年3月期第2四半期	235.94		—					
28年3月期第2四半期	153.21		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	5,645	3,845	68.1
28年3月期	4,801	3,733	77.8

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 3,845百万円 28年3月期 3,733百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	30.00	—	30.00	60.00
29年3月期	—	30.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	30.00	60.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	4,014	10.5	116	5.9	109	△2.7	124	77.2	233.50

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

29年3月期2Q	54,000株	28年3月期	540,000株
----------	---------	--------	----------

② 期末自己株式数

29年3月期2Q	8,943株	28年3月期	8,943株
----------	--------	--------	--------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

29年3月期2Q	531,057株	28年3月期2Q	531,146株
----------	----------	----------	----------

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続が実施中です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料2ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
(3) 追加情報	5
3. 四半期財務諸表	6
(1) 四半期貸借対照表	6
(2) 四半期損益計算書	8
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用ならびに所得情勢の改善が継続し、緩やかな回復基調で推移いたしました。しかしながら、英国のEU離脱問題、中国をはじめとするアジア新興国の景気の下振れの懸念等により、景気の先行きは依然不透明な状況で推移いたしました。

このような経済環境のもと、当社におきましては、お客様に感動していただくため、引き続き「『感動の創造』をキーワードとなる経営をします。」という方針のもと、お客様目線に立った一層のサービスの充実を図り、商品・環境を提供し、感動の創造に努めてまいりました。

この結果、当第2四半期累計期間の売上高は20億31百万円(前年同期比4.3%増)、営業利益は97百万円(前年同期比18.0%減)、経常利益は85百万円(前年同期比29.7%減)、四半期純利益は1億25百万円(前年同期比54.0%増)となりました。

なお、当社の中間配当金につきましては、11月11日の取締役会におきまして、1株当たり30円とし、支払開始日を12月2日と決定いたしております。

以下、事業別の概況をご報告いたします。

【シネマ事業】

映画興行界におきましては、洋画に大ヒット作が乏しかったものの、多数のアニメ作品が上半期の興行収入上位を占めるなど好調に推移し、全体の興行収入は昨年同時期を上回る水準でした。特にアニメ作品「君の名は。」は、当初10代・20代のお客様を中心に評判を得ておりましたが、今や幅広い年齢層に支持され、一昨年の「アナと雪の女王」に迫る勢いを見せております。

このような状況のなか当事業では、平成28年7月15日に名古屋駅前のシンフォニー豊田ビルに「ミッドランドスクエアシネマ2(7スクリーン)」を開業し、既存の「ミッドランドスクエアシネマ」と合わせて名古屋市内最大の14スクリーン体制とし、シート・音響・映像等のすべてがプレミアムな映画館をご提供させていただきました。さらに、上質なアート作品をお届けする「アートシネマ・スクエア レーベル」、様々なアニメ作品をお届けする「アニメーション・スクエア レーベル」という2つのレーベルを立ち上げ、他に「シネマ歌舞伎」やライブビューイング等、様々なジャンルのエンターテインメント作品も提供し、あらゆる映画ファンの期待に応える多彩な作品をお届けしてまいりました。

また、会員システムの見直しを図り、会員数の拡大に努めてまいりました。

主な上映作品といたしましては、洋画では、7月公開の「インディペンデンス・デイ：リサージェンス」、「アリス・イン・ワンダーランド/時間の旅」、8月公開の「ジャングルブック」、邦画では、6月公開の「植物図鑑 運命の恋、ひろいました」、7月公開の「HIGH&LOW THE MOVIE」、8月公開の「シン・ゴジラ」、アニメでは、4月公開の「ズートピア」、7月公開の「ファインディング・ドリー」、「ONE PIECE FILM GOLD」、8月公開の「君の名は。」、ODS(映画以外のデジタルコンテンツ)では、シネマ歌舞伎「歌舞伎NEXT 阿弔流為」、「アイドルマスター・シンデレラガールズ」のライブビューイングなどの番組を編成いたしました。

そのほか、「ミッドランドスクエアシネマ2」においては、毎週火曜日から木曜日の夜に、人気アイドルによるスクリーン映像を使った映画館初のライブイベントを開催するなど、新しい試みにも挑戦し、今まで映画館を利用しなかった新しいお客様の発掘にも努めてまいりました。

また、平成28年9月16日にはシンフォニー豊田ビルに、映画館に持ち込んでいただいたり、上映後にご利用いただける店舗として「LA BOBINE ガレットカフェ」がオープンしました。名古屋初、ラップドガレット&クレープの専門店として、食と空間を楽しむためのカジュアルでありながら上質な店舗をご提供させていただきました。

この結果、売上高は14億93百万円(前年同期比5.8%増)、セグメント利益は93百万円(前年同期比26.6%減)となりました。

なお、名古屋駅前センチュリー豊田ビルの「ピカデリー」は、シネマ事業の効率化を図るため、平成28年6月30日をもって閉館いたしました。

【リラクゼーション事業】

飲食部門の名古屋市千種区の「覚王山カフェJi. Coo」におきましても、地域密着型の運営に心がけ、メニュー・サービスの一層の充実を図り、順調に推移いたしました。

一方、温浴部門の名古屋市中川区の「太平温泉 天風の湯」、および愛知県江南市の「松竹温泉 天風の湯」におきましては、競合店舗が多い中、近隣の顧客開発も強化し、引き続き地域密着型の運営を心掛け、店舗独自のイベントの実施やサービスの充実を図り、お客様に満足いただける店舗創りに努めてまいりました。

この結果、当事業では、売上高は3億59百万円（前年同期比7.0%減）、セグメント損失は14百万円（前年同期はセグメント損失14百万円）となりました。

【アド事業】

当事業におきましては、さらに商材研究と開発を行うことにより、競争力を上げ、積極的な営業展開で商圏の拡大を図ってまいりました。得意分野の映画宣伝や関連サイン工事をさらに伸ばし、質の向上とともに、売上の上積みを目指してまいりました。

この結果、当事業では、売上高は1億78百万円（前年同期比20.3%増）、営業利益は19百万円（前年同期比173.1%増）となりました。

今後の見通し

今後のわが国の経済は、景気の回復基調が続いているものの、海外の政治情勢等の不安要素もあり、先行き不透明な状況は依然として続くものと思われまます。

当社におきましても、厳しい経営環境が続くものと思われまますが、引き続きお客様の感動の創造に勤め、サービスの一層の充実を推進してまいります。

シネマ事業では、スクリーン増に伴い、そのスケールメリットを今まで以上に発揮できるよう番組編成ならびに上映を行うとともに、お客様のニーズに応えるサービスの提供に努めてまいります。

当下半期の予定上映作品といたしましては、洋画では、11月公開の「ファンタスティック・ビーストと魔法使いの旅」、12月公開の「ログ・ワン／スター・ウォーズストーリー」、「パイオハザード ザ・ファイナル」、邦画では、12月公開の「海賊と呼ばれた男」、「僕は明日、昨日のきみとデートする」、3月公開の「3月のライオン」、アニメでは、12月公開の「妖怪ウォッチ3」、「ポッピンQ」、3月公開の「モアナと伝説の海」、ODSでは「シネマ歌舞伎」、「MET ライブビューイング」などの幅広いジャンルの良質な作品を予定しております。

また、引き続きライブイベントを実施するほか、落語、学術分野の講演会など、幅広いスクリーンの活用を模索し、他のシネコンにない独自の番組を企画してまいります。

リラクゼーション事業では、感動を提供できるおもてなしを心掛けるとともに、積極的なイベントの実施やサービスの提供で、売上向上に努めてまいります。また、近隣営業にて新規顧客開発にも注力してまいります。

なお、愛知県江南市の「松竹温泉 天風の湯」は、経営資源の選択と集中を強化し、今後一層名古屋駅前を核とした事業展開するため、平成29年1月1日をもって事業譲渡することとなりました。

アド事業では、大きく拡がりを見せた名古屋駅前の営業強化を図るとともに、得意分野の映画宣伝を中心に、引き続き全国的にも積極的な営業展開を図り、売上向上に努めてまいります。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間末の総資産は56億45百万円となり、前事業年度末に比べ8億44百万円の増加となりました。これは主に有形固定資産の増加によるものであります。

負債は17億99百万円となり、前事業年度末に比べ7億32百万円の増加となりました。これは主に流動負債の増加によるものであります。

純資産は38億45百万円となり、前事業年度末に比べ1億11百万円の増加となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年3月期の業績予想につきましては、平成28年5月12日公表時から変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

税金費用の計算

法人税等の納付税額の算定については、当会計年度の税金等調整前当期純損益に対する税効果会計適用後の実行税率を合理的に見積り、税金等調整前四半期純損益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しています。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期会計期間から適用しています。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	525,587	862,040
受取手形及び売掛金	135,799	211,175
有価証券	400,002	100,000
商品及び製品	5,423	9,710
前払費用	28,308	38,597
預け金	61,711	62,362
繰延税金資産	9,814	9,814
その他	8,860	210,801
貸倒引当金	△969	△1,606
流動資産合計	1,174,537	1,502,896
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,721,911	1,965,506
構築物（純額）	51,122	45,360
機械装置及び運搬具（純額）	142,709	236,554
工具、器具及び備品（純額）	51,484	129,922
土地	669,168	634,896
建設仮勘定	5,644	-
有形固定資産合計	2,642,042	3,012,239
無形固定資産		
電話加入権	1,147	1,147
ソフトウェア	64,921	109,502
その他	-	432
無形固定資産合計	66,069	111,082
投資その他の資産		
投資有価証券	276,740	279,553
関係会社株式	-	10,000
差入保証金	638,951	721,414
長期前払費用	2,722	7,939
投資その他の資産合計	918,414	1,018,906
固定資産合計	3,626,526	4,142,228
資産合計	4,801,063	5,645,125

(単位：千円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成28年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	243,932	366,698
1年内返済予定の長期借入金	87,896	122,258
リース債務	53,786	92,029
未払金	2,916	13,417
未払法人税等	39,340	63,761
未払消費税等	23,163	-
未払費用	56,428	139,621
従業員預り金	4,613	2,953
賞与引当金	14,450	15,235
その他	66,253	200,612
流動負債合計	592,781	1,016,588
固定負債		
長期借入金	-	83,380
リース債務	79,705	263,776
退職給付引当金	62,003	60,077
長期未払金	39,500	39,500
資産除去債務	55,037	105,784
受入保証金	199,476	191,280
繰延税金負債	38,752	39,608
固定負債合計	474,474	783,406
負債合計	1,067,256	1,799,994
純資産の部		
株主資本		
資本金	270,000	270,000
資本剰余金		
資本準備金	13	13
資本剰余金合計	13	13
利益剰余金		
利益準備金	67,500	67,500
その他利益剰余金		
配当準備積立金	345,979	330,047
別途積立金	2,380,000	2,380,000
繰越利益剰余金	605,784	731,081
利益剰余金合計	3,399,263	3,508,629
自己株式	△67,547	△67,547
株主資本合計	3,601,729	3,711,095
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	132,078	134,034
評価・換算差額等合計	132,078	134,034
純資産合計	3,733,807	3,845,130
負債純資産合計	4,801,063	5,645,125

(2) 四半期損益計算書

第2四半期累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	1,946,647	2,031,132
売上原価	974,265	1,024,872
売上総利益	972,381	1,006,260
販売費及び一般管理費		
広告宣伝費	22,930	26,372
人件費	262,142	277,507
賞与引当金繰入額	14,480	15,235
退職給付費用	2,957	3,882
減価償却費	116,275	133,321
地代家賃	192,848	210,514
水道光熱費	91,522	80,092
修繕費	6,011	3,675
貸倒引当金繰入額	21	637
その他	144,147	157,363
販売費及び一般管理費合計	853,338	908,602
営業利益	119,043	97,657
営業外収益		
受取利息	214	88
受取配当金	2,525	2,747
協賛金収入	1,800	21,155
その他	1,301	1,517
営業外収益合計	5,841	25,510
営業外費用		
支払利息	1,710	603
開業費償却	-	35,794
その他	1,666	1,289
営業外費用合計	3,376	37,687
経常利益	121,508	85,480
特別利益		
固定資産売却益	-	203,195
特別利益合計	-	203,195
特別損失		
固定資産除却損	161	40,796
固定資産処分損	-	65,193
特別損失合計	161	105,990
税引前四半期純利益	121,346	182,685
法人税等	39,967	57,387
四半期純利益	81,378	125,297

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書計上額
	シネマ	リラクゼーシ ョン	アド	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,412,330	386,171	148,146	1,946,647	—	1,946,647
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,412,330	386,171	148,146	1,946,647	—	1,946,647
セグメント利益又は損失(△)	127,054	△14,979	6,967	119,043	—	119,043

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第2四半期累計期間(自平成28年4月1日至平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額	四半期損益 計算書計上額
	シネマ	リラクゼーシ ョン	アド	計		
売上高						
外部顧客への売上高	1,493,653	359,301	178,178	2,031,132	—	2,031,132
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,493,653	359,301	178,178	2,031,132	—	2,031,132
セグメント利益又は損失(△)	93,235	△14,609	19,031	97,657	—	97,657

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。